

【実施日時・場所】令和元年12月1日（日）福島市立三河台小学校

【研修の様子】

各種研修会報告 10:10~12:10

午前の部は、各種研修会に参加した会員の報告を行いました。4人の報告を通して、理科の授業で大切にしたいことやこれからの教育に必要なものを再確認する機会となりました。

理科教育実践国際交流事業 2019
 (オーストラリアでの海外研修)
 福島大学附属小学校 野口卓也教諭



日本とオーストラリアの教育を比較することで見えてきた、日本のよさや課題を知り、今後の授業実践や日々の教育活動にどう生かしていくかを考えるきっかけになりました。

全国特別研修会
 (2018年~2019年)
 福島大学附属小学校 加藤怜教諭



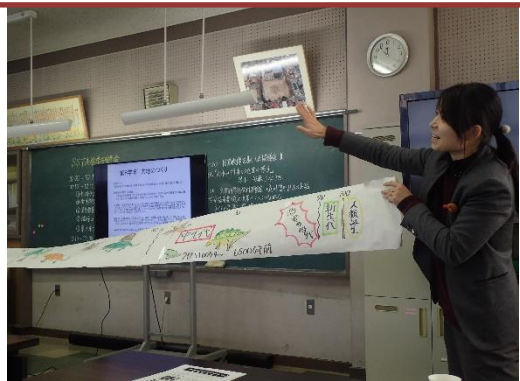
「変わる自分を楽しむ子どもの育成」をテーマとした2年間の実践研究について、子どもが自覚的に学ぶよさや難しさを、具体的な子どもの姿を通して学ぶことができました。

理科みらい塾
 須賀川市立仁井田小学校 菊地実咲教諭



「視点をもって自然を見ること」や「教師自身が探究者になること」など、これからの授業づくりにとって大切なことを、菊地先生の実感を伴った言葉から学ぶことができました。

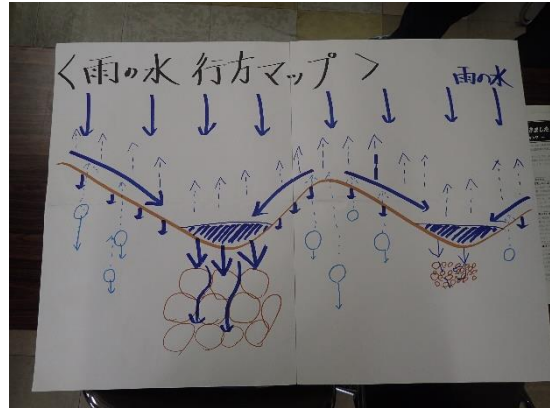
東日本ブロック研修会
 福島市立野田小学校 桑原由季教諭



「大地のつくりと変化」において、時間的・空間的な見方を働かせながら問題解決をしていくための手立てについて学びました。また、スケールの大きい単元だからこそその悩みや難しさも共有することができました。

授業映像を基にした協議会 13:00~14:20

午後の部の初めは、いわき市立泉小学校の佐藤正仁主幹教諭による、第4学年「雨水の行方と地面の様子」の授業実践を基に、見方・考え方を働かせて、資質・能力を育む授業について協議を深めました。



佐藤主幹教諭の授業を通して、参加者は以下のような学びを得ることができました。

- 見方・考え方を働かせたり、資質・能力を発揮したりした瞬間に、適切に価値付け、全体に広めることで、子どもの学びを深めようとする構えを教師がもつこと
- 砂の粒の大きさに着目できるような働きかけが必要になること
- 単元終末に目標となる活動（雨水の行方マップ）を設定することで、学んだことを生かす場を確保することができるようになること など

鳴川哲也先生の講演「新学習指導要領と理科の授業づくり」 14:30~16:00

本日の研修の最後は文部科学省教科調査官の鳴川先生から、全国で講演していただいている話をいただきました。

鳴川先生の話から、参加者は以下のような学びを得ることができました。

- 「見方・考え方」を働かせることで、「資質・能力」を育むについて教師がきちんと理解する必要がある。子どもにどんな力をつけるかという視点で振り返る。
- 全国の「見方・考え方」に関する実践は大きく二つに分かれてきている。
 - ① 子どもたちが働かせた「見方・考え方」を教師が価値付けをし、子どもと一緒に整理をする
 - ② 子どもたちに「この見方や考え方が大事なんだぞ」と提示し、働かせることができたなら価値付けをする

教師の授業力や経験年数等を考えて、来年度から授業実践をおこなってほしい。

など